

【資料3】

観光分野の令和2年度の進捗状況等及び令和3年度の強化のポイント（地域観光課）

（5）戦略的な観光地域づくり

ア 「外貨を稼ぐ」観光地域づくりの推進

《取り組み状況》

①広域観光組織が主体となる市町村をまたがる滞在型観光プランづくり

②観光地域づくりをマネジメントする人材の配置と育成

③広域観光組織のマーケティングやマネジメント力の強化

・観光地域づくり型の開催（7～8月の間、計4回、参加者：28人）

※4 広域観光組織（東部、中部、仁淀ブルー、幡多）対象
※地域ごとに分科会を月1回程度開催し滞在型観光プラン整備計画の策定支援（9月～）

・県版地域おこし協力隊の雇用（東部：10/16、仁淀ブルー、幡多：R3.1 計3人）
・市町村をまたがる滞在型観光プラン整備計画の策定（4プラン（予定））

④ワーケーションの推進

・ワーケーション受入環境の整備支援（土佐清水市4施設 WiFi 整備等 12月完成）**5月補正**
・ワーケーション推進キックオフイベントの開催 **6月補正**

（11/16～18、於：土佐清水市、高知市（参加企業17社 23名））
・観光施設等緊急整備事業費補助金を創設し、旅館・ホテル、観光施設等でのワーケーション受入環境の整備を支援 **9月補正**

⑤ワーケーションプラン磨き上げ事業 **9月補正**

⇒ モデルプランの作成（東部2、中央部4、西部3プラン（予定））

・ワーケーション受入施設等を紹介するウエブサイトの開設（R3.3（予定））

⑥アドベンチャーツーリズムの推進

・北海道先進地探察（8/17～19、北海道経済産業局、アドベントチャーブルード・ミット2021 北海道実行委員会事務局、DMO 同乗観光協会まちづくり推進機構ほか）
・アドベントチャーブルード・ミット2021 北海道大会の商談会でのセールスや体験ツアーやの採択に向けたコースづくり（「仁淀川としまなみ海道」、「四万十川」などをテーマに）

イ 「歴史」「食」「自然」の観光基盤による多様な周遊の仕組みづくり

《取り組み状況》

①観光拠点等整備事業費補助金等による自然・体験をテーマにした自然景観、体験型観光施設等の整備

◆自然景観やビュースポットの整備

・三原村ヒメノボタンの里を拠点とした周遊促進のための整備（9月末完成）

◆体験・滞在型觀光施設の整備

・四万十川ジッブライン ランドオーブン（四万十町 6/27 スタート）
・湖の駅さぬらレイクタウングランドオーブン（上佐町 9月完成）
・須崎市海洋スポーツパークでの体験機能強化（体験学習施設 3月完成（予定））
・星ふるヴィレッジ TENGU（旧天狗莊）リニューアルオープン（R3.6（予定））など
◆体験プログラムの磨き上げ
・幌ヶ森での体験プログラムの磨き上げ（山歩きガイドの差成 12月末完了）など

◆観光施設等緊急整備事業費補助金（屋外観光施設等緊急整備事業）の創設 **9月補正**

①屋外観光施設や体験・滞在メニューの磨き上げを支援（20市町村 28事業）
②観光拠点等整備事業費補助金等によるビュースポット等の整備を核とした、周辺の自然・歴史・食を絡めた周遊観光の促進
・しまんと・あしづり号、四万十川バスの運行支援

・高知プレミアム交通 Pass の販売開始 **9月補正**
(11/27～紙チケット先行販売開始、Webチケットは1/28販売開始（予定）) など

ウ 新足摺海洋館のオープンと周遊の仕組みづくり

《取り組み状況》

◆オープン前

・奄串海洋観光クラスター第一回会議（6/2）
・新足摺海洋館 SATOMI 内覧会の開催（7/16, 17 地元関係者、県関係者、県内外水族館関係者、県内旅行会社、旅館組合、県内外メディアなど）
◆オープン
・新足摺海洋館 SATOMI オープン（7/18）※ 備後多地域イベント開催（7/18・19）
◆オープン後
・新足摺海洋館 SATOMI 来館者5万人達成（8/16）
・新足摺海洋館 年度最多来館者数（1979年度 109,765人）更新（10/25）
・足摺海洋館単年頭数最多来館者数（1979年度 109,765人）更新（10/25）
・足摺海洋館「夜の水族館」開催（1/2, 1/16, 2/6, 2/20, 3/6）
※_海洋館入館者数 143,935人（12月末現在）、R2年度目標：112,000人

エ 民間企業のノウハウを積極的に導入した観光地域づくり

《取り組み状況》

・専門家（スーパーバイザー）を市町村へ派遣（6/17～19, 8/18～20, 10/6, 7）
(第1回：6/17～19 四万十町、馬路村など、第2回：8/18～20 佐川町、南国市など、
第3回：10/6, 7 箕毛市、土佐町)
・足摺海洋館「夜の水族館」リユースオーナー開催（リユースオーナー）
・足摺海洋館「夜の水族館」開催（1/2, 1/16, 2/6, 2/20, 3/6）
※_海洋館入館者数 143,935人（12月末現在）、R2年度目標：112,000人

《令和2年度末の目標》

1 全国から訪客できる観光拠点の整備数（観光庁登録 DMO 数） = R2 : 2 力所
2 広域観光組織の体制強化数（観光庁登録 DMO 数） = R2 : 4 力所
3 市町村をまたがる帯在型観光プラン数 = R2 : 4 件（計画策定期）

《直近の成果》

1 全国から訪客できる観光拠点の整備数 = R2 : 1 力所
2 広域観光組織の体制強化数（観光庁登録 DMO 数） = R2 : 3 力所
3 市町村をまたがる帯在型観光プラン数 = R2 : 0 件（計画策定期）

(7) 感染症拡大防止にも対応できる事業体の強化と人材育成

《取り組み状況》

① 体验事業者の新型コロナウイルス感染症対策の促進

・安全管理マニュアル作成セミナーによる新型コロナウイルス対策の説明

(7/15 東部、7/16 西部、7/17 中部)

・自然・体験型観光アドバイザーによる新型コロナウイルス対策を含む受入研修の実施

(対象：体験観光事業者や教育旅行受入団体、8/3～5：嶺北、高幡・幡多、安芸地域)

・安心安全な体験プログラム推進協力金の支給

6月補正 【再掲】

・旅館・旅行業等緊急支援事業費補助金による支援

5月補正

6月補正 【再掲】

② アドバイザー派遣による新型コロナウイルス感染症対策のサポート、インストラク

ターの養成（カヌー）

・安全管理マニュアル作成セミナーの開催（マニュエアル作成に係る説明、新型コロナウイルス対策、県の支援策等の説明、7/15 東部 33 人、7/16 西部 27 人、7/17 中部 30 人+Zoom27 人参加）

・自然・体験型観光アドバイザーによる「教育旅行における体験プログラム実施にあたってのコロナウイルス感染防止対策研修会」の開催（10/19 東部 17 名、10/20 西部 14 名、10/21 中部 7 名参加）

・安全管理ガイドラインチェックリストに基づく現状把握のためのアンケート調査を実施（11 月～12 月 回答数 95）

・リバーカヌーガイド養成講座 in 四万十川（中級編）の開催（2/7～3/21 全 9 回（予定）、定員 15 名）

③ 土佐の観光創生塾の実施（観光事業者の人材育成、観光商品づくり）

・第 1・2 回【導入編】【実践編】合同開催（オンライン講座）

東部（6/29）、中部（6/23）、西部（6/22）

・第 3・4 回【導入編】【実践編】合同開催（オンライン講座）

東部（7/7）、中部（7/8）、西部（7/6）

※参加者数 【導入編】76 人、【実践編】59 人（55 事業者）、【パワーアップ編】6 人

・地域コーディネーターによる個別支援（随時）

・旅行会社等での販売数 71 件（12 月末現在）※R2 目標：50 件以上

地域の強みを生かした滞在型観光地域づくり～より大きな面で受けける観光の実現～

県全域で広域を単位とする幅と厚みのある「外貨を稼ぐ」滞在型の観光地域づくりを推進

【目的】
県全域で広域を単位とする幅と厚みのある「外貨を稼ぐ」滞在型の観光地域づくりを推進することで、「より大きな面で受けける観光」を実現し、県全域で滞在日数の増加を図る。

【取組内容】

＜機能の強化＞
・土佐の観光創生塾の特設コースで、「市町村を通じて、またがる滞在型観光プランづくり」を実現し、県全域で滞在日数の増加を図る。

R 2 年度 高知県東部観光協議会
仁淀ブルー観光協議会
幡多広域観光協議会
物部川DMO協議会
R 3 年度 士佐れいほく観光協議会
奥四万十観光協議会
+ R 3 年度 物部川DMO協議会

＜体制の強化＞
・広域での観光地域づくりの舵取り役となる広域観光組織に人材を配置(地域おこし協力隊制度を活用)
・配置先：「日本版DMO」又は「日本版DMO候補法人」に登録されている広域観光組織

R 2 年度 高知県東部観光協議会
仁淀ブルー観光協議会
幡多広域観光協議会
+ R 3 年度 物部川DMO協議会

市町村をまたがる滞在型観光プランづくり
士佐の観光創生塾の特設コース「観光地域づくり塾」
専門家派遣等による知識や手法の習得
DMO先進事例

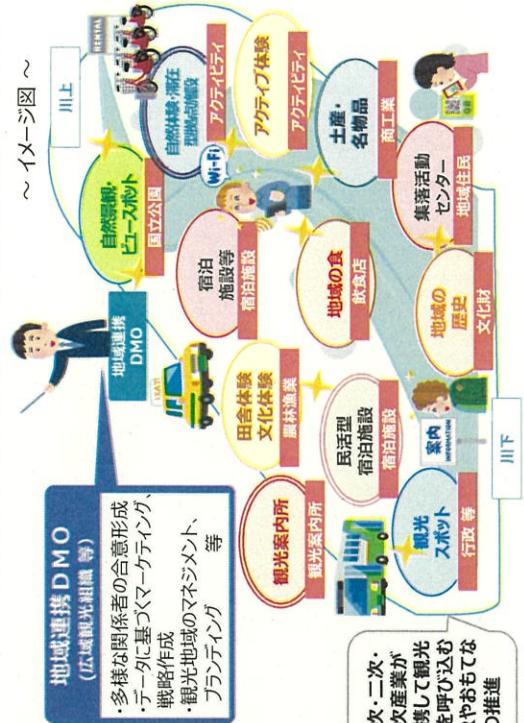
地域コーディネーターによる支援
旅行ニーズの検証等を通して広域エリアを単位とした滞在型観光プランの整備計画を策定し、計画に基づく商品開発や受入環境整備等を行う

目指す姿



県全域で滞在日数の増加を図るために、
・広域単位で「外貨を稼ぐ」滞在型の観光地域づくりを推進
・広域エリアをつなぐ大きな面単位の滞在型観光にもつなげる

流域全体の滞在型の観光地域づくりを推進

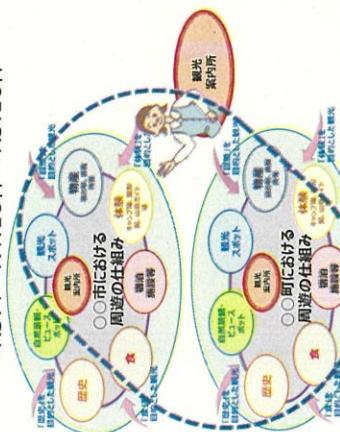


～イメージ図～
川上
川下
<例> 全国区の潮流も、流域の自然や暮らし、産業など身近な資源を生かした体験・滞在メニューを組み合わせた滞在型観光の推進

市町村をまたがる滞在型観光プランを広域エリアに拡充

第1段階 市町村をまたがる 滞在型観光プランづくり 「観光地域づくり塾」

R 2: 4件(整備計画策定)
⇒R3: 4件⇒R4: 10件⇒R5: 16件



第R2年度策定中のプランのテーマ等

・東部観光協議会
⇒宿泊施設を拠点に「レンタカー×鉄道×レンタサイクル」を組み合わせた周遊・滞在型観光
・物部川DMO協議会
⇒ファミリー層をターゲットにした滞在型観光
・文化体験を生かした滞在型観光
・仁淀ブルー観光協議会
⇒仁淀川流域における食と体験を生かした滞在型観光
・幡多広域観光協議会
⇒SDGsをテーマとした「教育旅行」「滞在型観光」

市町村をまたがる滞在型観光プランづくり
士佐の観光創生塾の特設コース「観光地域づくり塾」
専門家派遣等による知識や手法の習得
DMO先進事例

地域コーディネーターによる支援
旅行ニーズの検証等を通して広域エリアを単位とした滞在型観光プランの整備計画を策定し、計画に基づく商品開発や受入環境整備等を行う